

まちづくりの地域情報紙

**e-NET 6500**  
EIGENJI



コロナに打ち克ち  
飛翔の年になりますように

係留気球フライト体験 11月3日  
関連記事 6.7 ページ

情報紙 第106号 2023年 1月 1日

編集・発行：永源寺地区まちづくり協議会 東近江市山上町 1316 番地 永源寺コミュニティセンター内  
IP：050-5802-9336 <http://members.e-omi.ne.jp/e-net6500/> E-mail：e-net6500@e-omi.ne.jp



# まちの話題



## 市のエコツーリズム推進構想、国が認定 県内初、記念フォーラムを開催



市が策定されたエコツーリズム推進全体構想が、国のエコツーリズム推進法に基づき認定され、10月22日、認定式と記念のフォーラムが永源寺コミュニティセンターで行われました。今回の認定は県内では初、全国で21か所目となります。

鈴鹿山脈から琵琶湖までの広い市域に、森・里・川・湖の原風景があることから、全国で初めて市全体が推進地域に指定されました。構想の策定を進めつつ数々のエコツアーを実践中で、小椋市長は「それぞれの地域資源に磨きをかけ、実施しているさまざまなエコツアーの質をさらに高めて、市の魅力を一層高めていきたい」と抱負を語られました。

## 地域課題について市長と意見交換 2年ぶりに開催、まちづくり懇談会



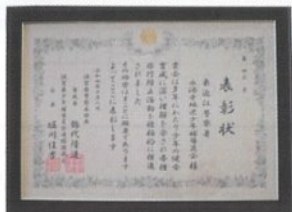
地域の課題解決について、小椋市長をはじめ市の幹部と地域住民が意見交換を行う「まちづくり懇談会」が10月13日、永源寺コミュニティセンターで行われました。

2年ぶりに開催された今年の懇談会には、まちづくり協議会や自治会連合会の役員ら20人が出席。高齢化とコロナ禍で停滞気味の自治会活動について、今何をすべきか、また、森の博物館構想と永源寺地区での定住策について意見交換が行われました。その後、市長から永源寺地区の将来像について語っていただき、その思いを共有して協働のまちづくりを進めていく必要性を確認されていました。

## 永源寺地区少年補導員会が 滋賀県警察本部から表彰



永源寺地区少年補導員会（若林淳一会長）は、青少年の健全育成や非行・被害防止活動を積極的に推進されており、永年にわたるその功績が認められたことから、10月8日に彦根市文化プラザで行われた「なくそう犯罪」滋賀安全なまちづくり県民大会の席上で、滋賀県警察本部長・滋賀県少年補導員会連絡協議会長の連名表彰を受けられました。



今後においても、青少年を取り巻く環境の浄化や子どもたちの安心安全のためご活躍いただくことを期待しています。

## 花いっぱい地域をつくろう 環境部会が寄せ植え教室



地域が「花いっぱい」になるようにと、まちづくり協議会環境部会では、5月29日、11月25日、12月1日に東部、中部、西部の3か所で「寄せ植え教室」を開催し、毎回たくさんの方に参加していただきました。今回は、色とりどりの季節の花を確認しながら植木鉢に入れ込んでいきます。寄せ植えの重要ポイントとして、水は植えてからすぐ6割やり、土が乾いたらまた6割やることの繰り返しで、土が乾いている時に根が伸びるので、絶対毎日水浸しにしないようにとのことです。他に花がらの摘み取り方、花の置き場所、肥料のやり方など知っているようで知らないことばかりで、参加者は大変勉強になったと喜んでおられました。



## 煎茶道から政所茶の新たなルーツを探る



唐木岱仙師範の美しいお手前

煎茶道と政所茶の関係を広く知ってもらおうとする黄檗（おうぼく）売茶（ばいさ）流の茶会が10月12日、霜錦館で行われました。

煎茶道とは、粉末の茶である抹茶を用いて、侘（わ）び寂（さ）びを重んじる茶道とは異なり、煎茶や玉露などの茶葉を急須で淹れるもので、お茶と文化を一緒に楽しむ喫茶（サロン）の原型となったといわれています。煎茶道も数々の流派があり、黄檗売茶流は宇治市にある黄檗山萬福寺の茶礼から発展した茶道で、売茶翁（ばいさお

う）の志とともに美しいお手前を受け継ぐ流派です。

売茶翁は、江戸時代の黄檗宗の僧で、煎茶道の祖ともいわれており、この売茶翁が記した「越溪の新茶を試む」という詩には、「古い友人より茶が贈られてきた。これが越溪の一番茶である。封を開くと、その場にいる者みんなが満足する色と香り。珍重すべき茶である」とあり、越溪は政所茶が世にブランド化される以前の呼び名で、政所茶のルーツを探る意味でたいへん興味深い記録です。

このたびの茶会は、政所茶を生産する福井肇さん（杠葉尾町）が、政所茶の歴史について調べる過程でこのことを知り、売茶流の師範である唐木岱仙（からきたいせん）先生とお会いされ、実現されました。

この日参加された皆さんは唐木先生の美しいお手前を間近で拝見した後、煎茶道や政所茶のこと、美味しいお茶の淹れ方などを話しながら楽しい喫茶の時間を過ごされました。



11月26日の会議の様子

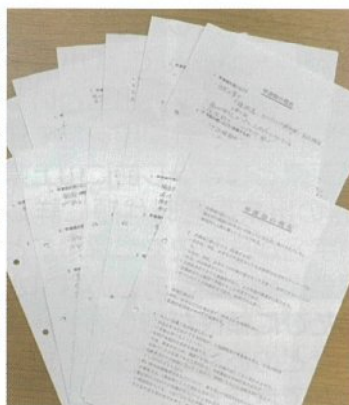
## 有志25人が愛するふるさとを語る

### 甲津畑みらい会議が発足

永源寺地区内でも特に人口減少や高齢化が著しい甲津畑町では、近年、自治会および地域行事の運営、農業経営、空き家など直面する問題が山積しています。

このような喫緊の課題に対応し、わがまち甲津畑町を存続させることを目的に、「甲津畑みらい会議」を自治会内の組織として立ち上げました。

みらい会議は、ふるさとを愛し、趣旨に賛同する者25人でスタートしました。



事前に行われたアンケート調査  
さまざまな意見が寄せられました

トしました。

1回目の会議では、ふるさとに対する想いを出し合い、現状を把握するため、甲津畑町の良いところ、悪いところ、地域行事のこと、ぜひ改革したいことなどについて、次の会議に提出することとしました。

「自分たちのふるさととは、自分たちで何とかする」を合言葉に、できることから少しずつでも行動に移していきたいと考えています。

（甲津畑町から情報提供）



# まちの話題



## 人気イベント 百済寺～永源寺ウォーク 田楽と桑茶で歓迎 おいでえな高野



民間の旅行会社が企画した「東近江が誇る名刹紅葉の百済寺から永源寺ウォーク」が11月12日に行われ、京阪神から75人が参加されました。

今回はテスト開催でしたが、参加者が多く市の観光協会からおもてなし対応の依頼があり、「おいでえな高野」のメンバーで山椒味噌田楽と桑茶で接待しました。参加者は、百済寺を拝観後、高野道に沿って歩き、永源寺へ参詣されました。皆さんからは、紅葉の素晴らしさと途中のロケーションの良さを話され、併せて感謝の言葉をいただきました。健康と観光を兼ねたイベントは、来年も開催されるそうです。(永源寺高野町から情報提供)

## 山上小6年生が相谷熊原遺跡を学ぶ 小さな土偶の大きな価値にびっくり!!



10月6日、山上小学校の6年生の授業で「地域の魅力を探る」と題して、相谷熊原遺跡についての学習が行われました。学区内の永源寺相谷町で発掘された土偶や遺跡の価値について理解を深めるため、当時発掘に関わられた滋賀県文化財保護協会の松室孝樹さんからお話を聞きました。

頭や四肢はなく胴と乳房のみの形をした全長3cmの小さな土偶のレプリカが廻され、「国内最古級の土偶で、海外の博物館にも出展されている貴重な文化財です」との説明に、児童たちは「身近なところから、こんなお宝が発見されるなんて」と、興味を示していました。

## 山上の歴史を深く探る 地域の歴史再発見講座



地域の歴史再発見講座が11月26日、永源寺コミュニティセンターで行われました。

講師は山上町の加藤紳一朗さんで、「小倉山上城から稲垣山上藩陣屋へ」がテーマ。山上という地名が古文書に登場した時代から、戦国期を経て江戸期の山上藩の時代、滋賀県となる少し前に山上県庁があったときまでの村の出来事を時代順に詳しく説明がありました。小字名から歴史を紐解くことが重要とのことや、境界争いや水論、あるいは洪水や飢饉なども多く、そのたびに領民が苦しめられ、藩財政も苦しかったことなどのお話に、改めて地域の歴史を再発見することができました。

## 3年ぶり、高木町で避難訓練 布引山までのウォークも同時開催



高木町では、11月20日に避難訓練と前山ふれあいウォークを開催しました。自主防災の事業の一環で3年ぶりの避難訓練となりました。住民は決められたコースを歩いて指定避難場所のなかよし広場に集結。点呼の後、水消火器で消火訓練を実施しました。改めて防災についての認識をする場となりました。その後、永源寺ダムへの堆積土砂で埋め立てられた布引山までふれあいウォークを行いました。工事中のため普段は入ることのできない山までのコースで、久しぶりに出会った方との会話も弾み、また、頂上からの地元の景色に見入っておられました。(高木町から情報提供)



# みんなの ふるさと祭り



11月6日、永源寺コミュニティセンターで、みんなのふるさと祭りが開催されました。

館内では、子どもたちや文化サークルの作品展示や演奏会をはじめ、ものづくり体験、アトラクションなどが行われました。また、屋外では地元野菜や特産品販売のほか、キッチンカーも出店し、大勢の来場者でにぎわいました。



たくさんの子どもたちが楽しんだ「なおちゃん」のアトラクション



日頃の練習の成果を披露



祭りのオープニングとエンディングは力強い太鼓の演奏で  
(左) 鈴鹿耆番太鼓 (右) 近江和太鼓団巴〜UZUMAKI〜



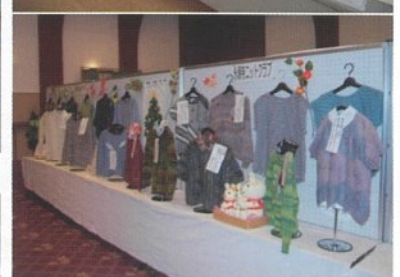
にぎわった食のブースや野菜の販売



ものづくりや手話を体験



もみじくん&かえでちゃんカード会の抽選会



子どもたちや文化サークルの作品が館内にずらりと並ぶ



列ができたキッチンカー

検温、手指の消毒、受付を済ませて館内へ





# 児童、地域みんなで祝う 創立150周年記念式典



市原小学校は、前身となる遷喬学校が明治6年、高木に創立してから今年が150年目になります。一年を通じてさまざま記念事業が行われてきましたが、12月1日の創立記念日には、創立を祝う記念式典が行われ、小椋市長や藤田教育長をはじめ、児童や学校関係者、地域の人たち約150人が参加されお祝いされました。

式典では、寄付目録の贈呈や教育功労者の表彰などが行われた後、児童からお祝いの言葉と、150年を記念して作られた「くすのきの詩」が披露されました。

児童を代表して池田夏希くんは、「11月3日に気球に乗り、輝いている市原地域を空から見るのができ、心に残る体験ができました。企画していただいた地域の皆さん、ありがとうございました」と謝辞を述べられ、飯田結愛さんは、「たくさんの地域の方々がわたしたちの学校生活に関わってくださっています。全校の皆さん、この伝統ある市原小学校に、これからも新しい歴史を刻んでいけるように一歩を踏みだしましょう」と、お祝いの言葉が述べられました。



●キャンドルナイト市原  
未来へと続く希望の灯  
シンボルくすのきをグ  
ランドに描き、みんな  
点灯。イベントのフィ  
ナリは打ち上げ花火



●フードコーナー キッチンカーがやってくる  
久しぶりのイベントでの飲食。キッチンカーには長蛇の列が。地元の菜の花クラブの皆さんによる豚汁サービスも大好評。大盛況のフードコーナー



●係留気球フライト体験 小学校周辺の眺めを上空から楽しむ



●地元住民による手づくりイベント  
ゲゲゲの鬼太郎バンドによるミニステージと氷の彫刻



●市原小学校の歩み展

ふるさと会館で歩み展を開催。卒業写真や木造校舎の模型、写真を展示。令和5年12月1日まで開催

●思い出フォーラム

戦中戦後に在籍された卒業生から当時の学校生活を振り返っていただきました

●10years letter

10年後のわたしに宛てた手紙をタイムカプセルに。10年ごとに小学校に集まろうと、呼びかけられました



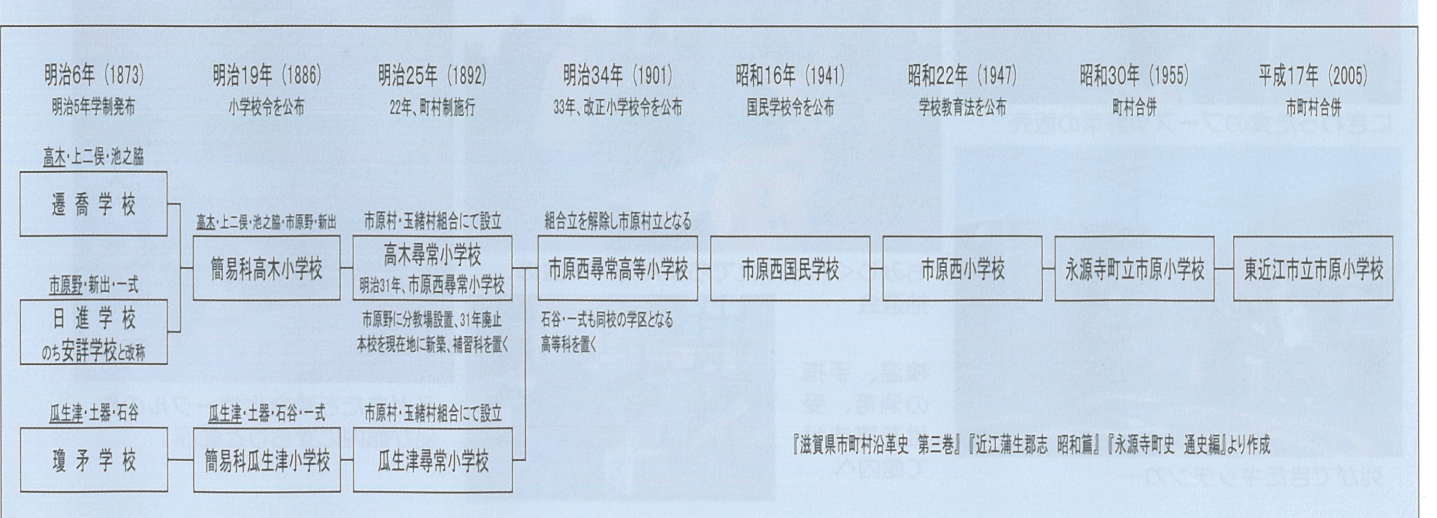
## 自己ベスト更新相次ぐ びわ学の大学生が応援 校内マラソン大会

恒例の学校行事のひとつ「校内マラソン大会」が、11月9日に行われました。今年のマラソン大会には、びわこ学院大学の教育福祉学部スポーツ教育学科の学生26人が応援に駆けつけてくれました。本番前に学生の皆さんから走るときの姿勢や腕の振り方、呼吸の仕方などの指導を受けたのち、低学年、中学年、高学年別にスタート。保護者や地域の人の声援に加え、マラソンコースに立哨した大学生の力強い応援や陸上部の皆さんに伴走していたいただいたお陰で、多くの児童が自己ベストを更新する頑張りを見せてくれました。最後に陸上部の皆さんの走る姿を見学し、その圧倒的な速さに刺激を受けていました。

# 市原小学校創立150周年記念事業 「くすのきの詩」の日 11月3日

市原小学校の創立150周年をお祝いするイベントが、11月3日、市原小学校やふるさと会館で行われました。小学校の歴史とともにあるシンボル「くすのき」をテーマとした「くすのきの詩」が新しくできたことを記念して、この日を「くすのきの詩」の日と定め、みんなで市原小学校の150歳をお祝いされました。

### 市原小学校の変遷

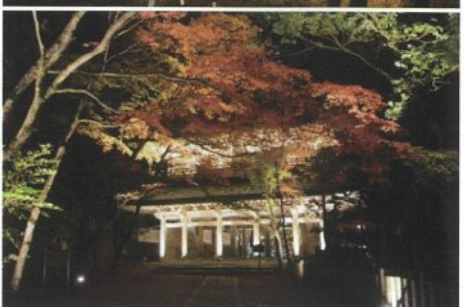
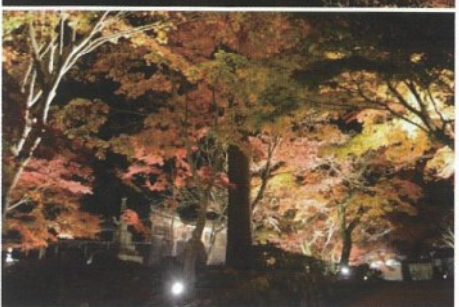
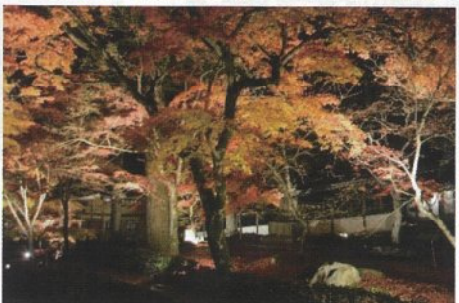
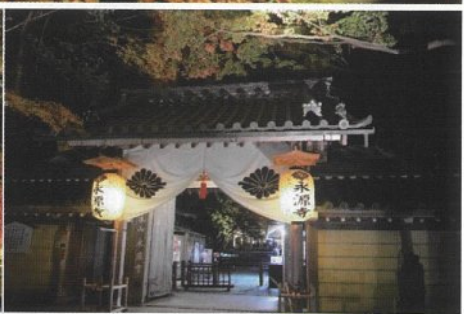
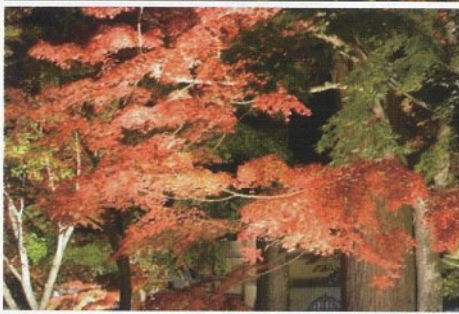
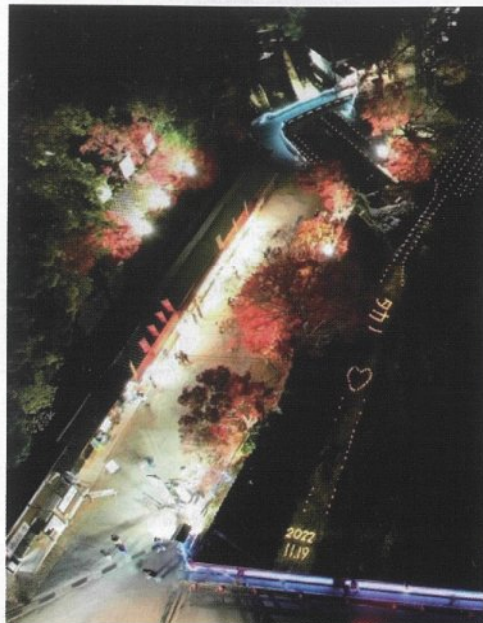


『滋賀県市町村沿革史 第三巻』『近江蒲生郡志 昭和篇』『永源寺町史 通史編』より作成



# 大本山永源寺 ライトアップ

11月12日～27日、今年も大本山永源寺のライトアップを行いました。今年は一日の寒暖の差が激しく、また夏場の台風の影響もなかったため、きれいな紅葉を観ることができました。





# 秋の夜長の音楽会

## 図書館で良い夜いコンサート

プロのトランペット奏者の演奏を愉しむ



秋の夜長を音楽で楽しむ恒例の「良い夜いコンサート」が11月5日、永源寺図書館で開かれました。

コンサート前半は、地元の小学生や音楽愛好家によるピアノやギター、コーラスの演奏があり、後半ではプロのトランペット奏者熊谷直子さんと濱田夕葵さんのトランペットアンサンブルユニットNEO(ネオ)の演奏が披露されました。

たくさんの方に生の音楽をより身近に感じていただければと各地で演奏活動をされています。

この日は、トランペットにピアノや打楽器で箱型のカホンが加わって4人の皆さんが「名探偵コナンメインテーマ」や「美女と野獣」など馴染み

小学生のピアノの演奏



のある曲を演奏され、会場は和やかな雰囲気になりました。



静かな境内に太鼓の音が響く

## ライトアップされた永源寺で ともしびライブ

11月19日の夕方から大本山永源寺で、ともしびミニライブを開催しました。大本山永源寺には、法鼓(ほく)と呼ばれる大太鼓があります。運搬にも苦勞するほどの大きな太鼓ですが、今年はオープニングで鈴鹿壱番太鼓の皆さんに演奏の中でたいていただくことができ、勇壮な太鼓の音が境内に響きわたりました。

また、音楽ユニット「わ音」さんは、方丈と呼ばれる本堂の大広間で、爽やかな歌声を披露していただきました。本堂に座椅子を約60席用意しましたが、瞬く間に満席になり、皆さん約1時間のライブを静かに聞き入っておられました。当日は境内に約800個の灯籠を並べ、境内でのライブの雰囲気づくりに努めました。

方丈でわ音のライブ



## 紅葉狩りのおともに「杖」をどうぞ 25年間続ける松吉伸さん(如来)

永源寺参道にある114段の石段を登る観光客のために、如来の松吉伸さんは、25年間にわたって竹製の杖を製作し、参道の入り口に設置しておられます。きっかけは、「香川県の金比羅さんを訪れた際、参拝者向けに杖の貸し出しがあったのを見て、永源寺でも、あればきっと便利はず」と思い、数年毎に杖を補充する活動を長年にわたって続けておられます。

松吉さんは、「永源寺にいられた方が喜んでいただければ、何よりの幸せ。生まれ育ったこの地域が大好きです。以前みたいに多くの観光客が訪れてほしいと願っています」と話されていました。また、松吉さんは、東日本大震災後、宮城県の南三陸町へ毎年玄米を送っておられ、それが縁で現在も交流を続けているとのお話も併せてうかがいました。



杖を手にする観光客



「私たちが考える まちの未来」 中学生議会

## 中学生議員が熱く政策提案

永源寺中学校から松下聖生さん、田中孝之介さん参加

中学生議員が市議会の一般質問をする「中学生議会」が11月6日、市役所の議場で行われました。

永源寺中学校からは、1年生の松下聖生さんと田中孝之介さんが参加され、「東近江市の自然と共存した観光政策について」をテーマに、堂々と政策提案されました。

中学生議会は、中学生が地域の課題への関心を高めることで郷土愛を育むとともに、主催者教育や市政、市議会の仕組みを学ぶ場として、今年初めて実施されました。



一般質問に登壇する松下議員

この日は、市内の中学校から選ばれた21人の中学生議員が進行役、議長などの役割に就き議事を進行。代表して12人の議員が一般質問を行い、副市長や教育長、市の幹部が答弁を行いました。

中学生議員からは、少人数学級の導入、中学校の制服の改定、高校生の通学費補助、市の人口増加や知名度向上など、教育、福祉、観光、まちづくり、歴史文化などについて、質問や提言が行われました。

永源寺中学校の松下議員、田中議員からは、「東近江市の自然と共存した観光政策について」をテーマに、奥永源寺の観光対策として「小さい駐車場を数か所作ること」「こみ捨て防



7月の任命式後、4回の事前研修で課題を探り質問内容をまとめる田中議員

止の呼びかけを徹底すること」「東近江市の良さを知ること」で若者の流出を防ぐために、「小学生、中学生が自然に興味を持つ自然体験ツアーの実施」を提案されました。

質問に対して商工観光部長は、「利用者のマナー向上に向けた取り組みや安全対策は重要で力を入れていきます。若い人たちが東近江市の良さを知り、住み続けたいと思ってもらう取り組みが大切との意見については大賛成です。今後の事業展開に生かしていきたいと考えています」と、答弁されました。

現地視察も含め4回の事前研修で課題をしっかりと把握し、課題解決に向け、堂々と質問・提案されていました。

松下くん誘われ、一緒に永源寺の魅力伝えていきたいと思って応募しました。

質問のテーマは、自然に興味があり、東近江市の自然の魅力をもっと知ってほしいと思ったからです。

事前研修を通じて、市内の各地域でも自然を守るための努力や工夫をされていることを知る機会になりました。

議場では、とても緊張しましたが、聞きたいことが聞いて満足しています。

わたしたちの質問に対して、丁寧に教えてください、これからの東近江市の発展に希望が持てました。

中学生議員として、違う学校の中学生とも交流できたことが良かったです。(田中孝之介さん)



松下議員(後列左)と田中議員(後列右)

先生も推薦してくださり家族とも相談して応募しました。

議員に選ばれたら、「自然」について聞きたいと決めていたので、質問のテーマはすぐに決まりました。事前研修で、行政の方からさまざまなことを学び、自分の考えを見つめ直す良い機会になりました。議場の雰囲気はピリピリしていて緊迫していましたが、余り緊張はしませんでした。思う存分発言できたと思っています。最後まで自分たちの提案が良いことなのか不安でしたが、「大賛成です」という答弁をいただき安心しました。活気あふれるまちに希望を感じました。

機会があれば、また参加したいです。議会で発言をやってのけたので、自分に自信がつかしました。(松下聖生さん)



## こんにちは保健師です ⑭

脈を測って心臓の状態を知ろう！  
自分でチェック

脳梗塞の約30%は心房細動などの心臓の異変が原因で起こっています。

心房細動とは心臓の拍動のリズムが乱れる不整脈の一つです。

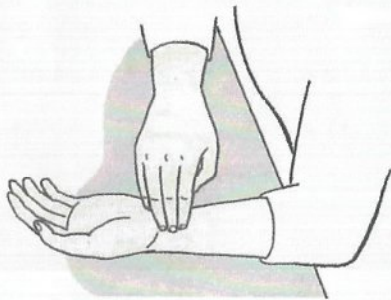
通常1分間に60~80回の規則正しいリズムで拍動しますが心房細動があると1分間に400回以上になります。

心臓で血液の流れが滞るので血の塊(血栓)ができやすくなり、脳の血管に運ばれ、詰まると脳梗塞が起こります。(心原性脳塞栓症)

自覚症状がない心房細動を見つけやすい方法があります。リラックスしている時に自分で脈を測りましょう！

### 【測り方】

- ①手首を内側に曲げた時にしわができるころと、親指の延長線が交差するあたりを反対側の手の人差し指・中指・薬指3本で少しきつめに、おさえましょう
- ②15秒間、脈を測り回数(10回以下は少なく、25回以上は多い)やリズムに乱れがないか確認し、異変があれば医療機関を受診しましょう。



## 永源寺地域が登場する本・雑誌

永源寺図書館提供

『滋賀の暮らしと食 昭和30年代の生活に関する調査より』 滋賀の食事文化研究会／編  
サンライズ出版

県内の8地域で10年近くにわたって行われた聞き取り調査の結果をまとめた本です。滋賀県は、琵琶湖に近い地域と山間部で風土が異なるため、それぞれの地域で暮らしと食に特色があります。調査対象である昭和30年代当時は農業・林業・漁業が盛んで、食料の7~8割を地元の食材でまかなっていました。第8章は「奥永源寺の暮らしと食」。政所・杠葉尾・黄和田・君ヶ畑を中心に、山間部の食文化や製茶業、林業、養蚕等の生業についてまとめています。



『実録・家で死ぬ 在宅医療の理想と現実』

笹井恵里子/著 中央公論新社

「8割の人が病院で死ぬ」現代日本。「家で死ぬ」ためにどうすればいいのか、在宅医療はどうなっているのか……ということを取材し、考えたルポルタージュです。

料理人・道場六三郎さんへのインタビューと並んで、永源寺診療所の花戸貴司先生へのインタビューも掲載されています。

実録・家で死ぬ

在宅医療の理想と現実

笹井恵里子

中央公論新社



**GREEN PLAZA**  
**KAWASHIMA**  
グリーンプラザ カワシマ



2022年 年末ラストバーゲン開催!!

12月25日・26日 洋ラン、鉢花、寄せ植え、観葉植物、ギフトアレンジ3割引きセール

12月27日・28日・29日 12:00まで 洋ラン、鉢花、寄せ植え、観葉植物、ギフトアレンジ半額セール  
無くなり次第終了!!

年末年始 営業の案内 12月29日PM ~1月9日休み 1月10日初売り

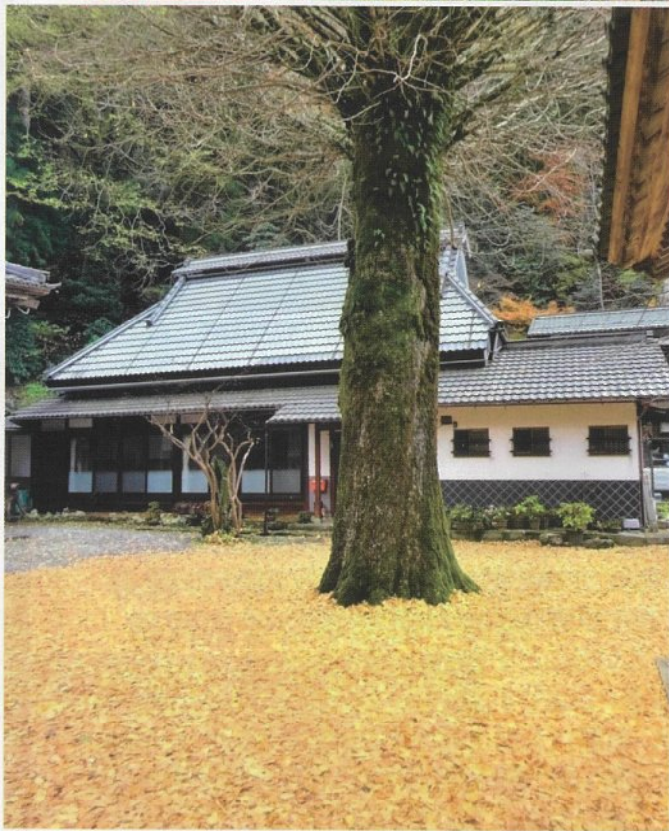
東近江市林田町 1480-1 TEL 0748-24-1119 FAX 0748-22-3618



錦秋纏う永源寺境内  
11月14日撮影



# Best angle 深まりゆく 秋を撮る



銀杏落葉の絨毯広がる 政所町の光徳寺  
11月10日撮影

世界糖尿病デー  
方丈がブルーに染まる夜  
11月14日撮影



恋人たちが行き交う夜の参道 11月19日撮影

## 編・集・後・記

新年おめでとうございます。情報紙「e・NET65000」は、今年もまちの話題や情報を迅速に分かり易く皆さまにお届けしたいと思っておりますので、ご愛読よろしくお願ひします。

私事ですが、昨年春に「銚子ヶ口」に登り、70歳を目前にやっと念願の鈴鹿10座全てを制覇することができました。山登りの魅力は日常の煩わしさを忘れ、何も考えずにひたすら頂上を目指して一歩一歩あゆみ続けること。途中、息苦しくなったり、膝やつま先が痛み出し、大丈夫かな?一緒に登山している人に迷惑をかけないかな?と心配することが何度もありますが、心配の回数だけ山頂へ着いた時の達成感と見える景色は最高です。

そしてまた登りたくなり、11月中旬に多賀町の「高室山」(標高818m)に登りました。紅葉は少し過ぎ、落ち葉を踏みしめながらの登山でしたが、天候にも恵まれ、山頂は360度の展望で目の前に霊仙山を眺め、御池岳など鈴鹿の山々が一望できる素晴らしい景色でした。登山口の多賀町佐目は近年、明智光秀が住んでいたのではと話題の地で、十兵衛屋敷跡近くにある十一相神社には、樹齢500年以上と言われる杉の巨木が御神木として祀られていました。時代の移り変わりをずっと見続けてきた御神木に畏敬の念を抱くと同時に、現在も権力や私利私欲に翻弄する人間の愚かさを悲しんでおられる様にも見えませんでした。今年こそ、世界で起こっている戦争や紛争が少しでも解決の方向に向い、平和な世界が訪れますように。

(H)